

八街市地震ハザードマップ

平成29年2月作成

ハザードマップの製作目的

平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災では、建築物に多数の被害が生じ、多くの尊い命が失われました。この地震による6,434人の死者のうち直接的な死者数は5,502人であり、この約9割の4,831人が住宅・建築物の倒壊・火災等によるものでした。このとき、新耐震基準に適合していない建築物（昭和56年以前に建築）が多く被害を受けています。

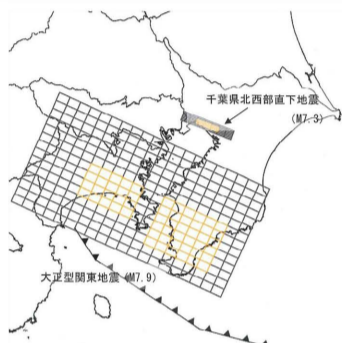
本市でも将来発生のおそれがある地震が起きた場合の被害の可能性を示し、防災意識の向上や住宅等の耐震化の促進を目的として地震ハザードマップを作成しました。

想定地震（八街市に影響を与える地震）

本ハザードマップで想定した地震は、以下の4つです。

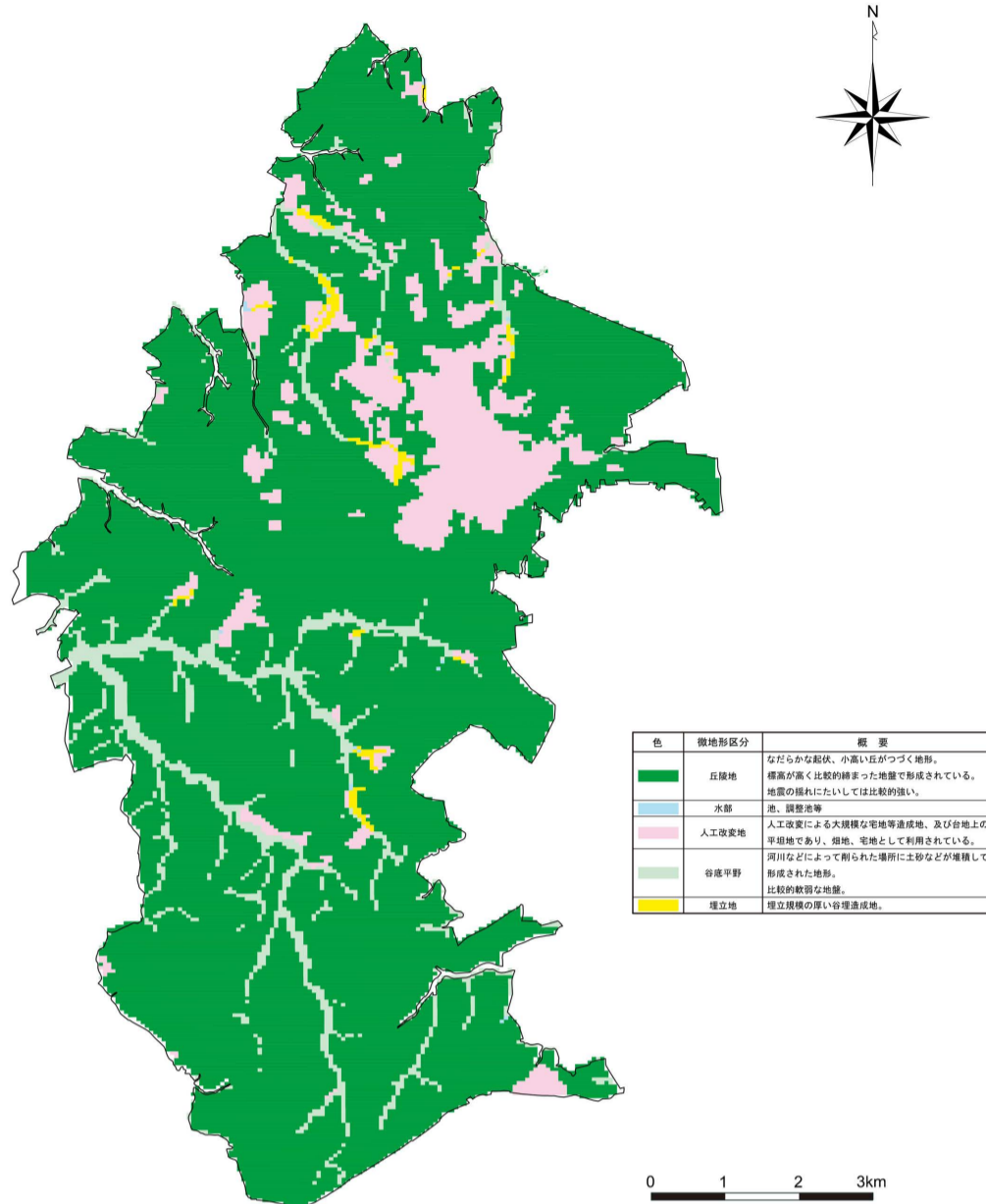
本想定地震および想定結果は、「平成26・27年度千葉県地震被害想定調査報告書」によります。

タイプ	地震名	M	概要	30年以内発生確率
プレート内	千葉県北西部直下地震	7.3	市川市から千葉市直下のフィリピン海プレート内の想定地震。	70%
プレート境界 (相模トラフ沿い)	大正型関東地震	7.9	関東大震災を引き起こした相模トラフ沿いのM8クラスの地震。	0~2%
プレート内	防災リスク対策用地震 (プレート内一律)	7.3	千葉県を含む南関東地域では、今後30年以内にM7程度の地震の発生確率が70%程度とその発生が切迫しているとされている。しかし、発生場所の特定は困難で、どこで発生するか分からない。	70%
活断層	防災リスク対策用地震 (地殻内一律)	6.8	このことから、県下全域で同時にM7程度の地震が発生することは無いが、地域の防災リスクを考える上で各地の直下でプレート内と地殻内でM7程度の地震の発生を想定。	70%



八街市の地盤

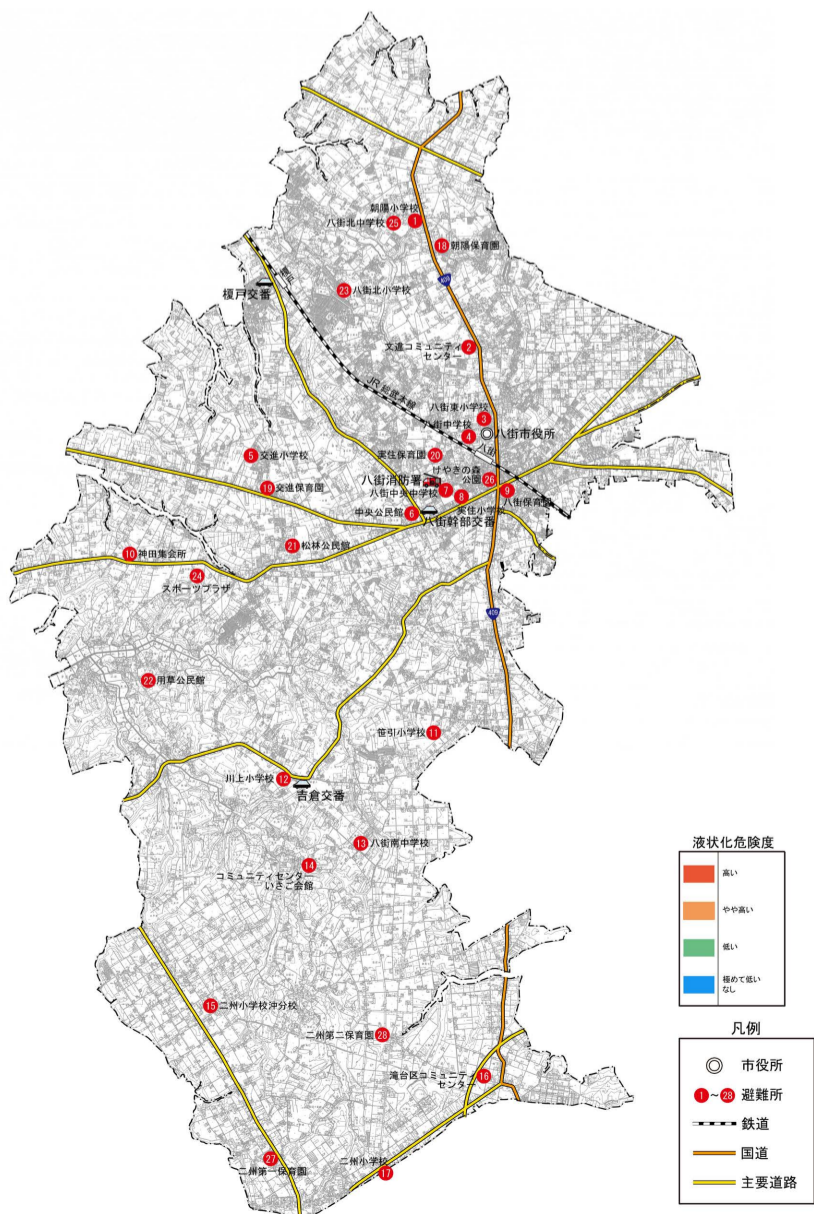
- 地震による揺れは、地盤と密接な関係にあります。台地等の比較的締まった地盤は地震による揺れが小さく、低地などの軟らかい地盤は地震による揺れが大きくなる傾向にあります。
- 軟らかい地盤に建物を計画する場合は、地盤調査や基礎工事を十分に行なってください。



液状化マップ

液状化マップは、想定地震が発生し、ゆれやすさマップに示される揺れが生じた時に液状化が生じる可能性を示したものです。

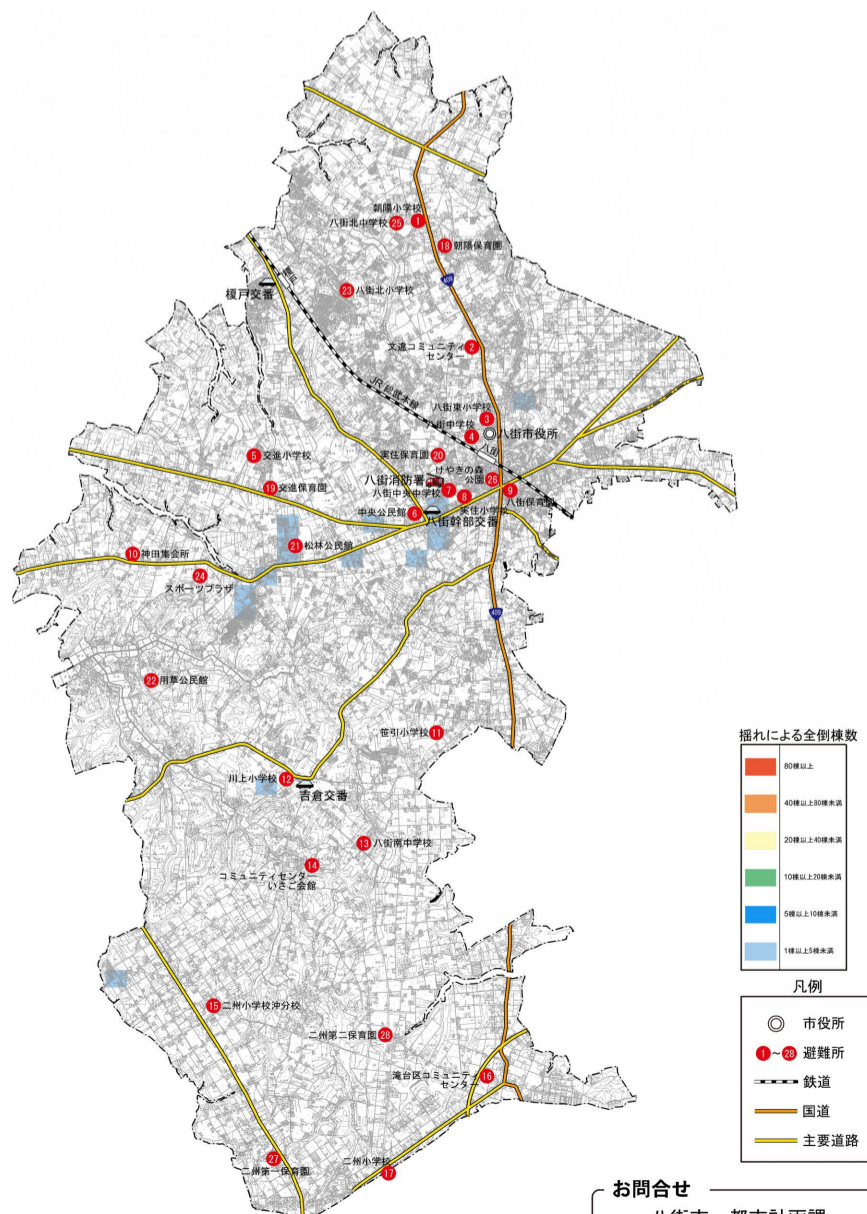
一般的に、液状化は地下水位が高い砂地盤で発生しやすいです。



建物被害マップ

建物被害マップは、想定地震が発生し、ゆれやすさマップに示される揺れが生じた時に全壊する建物棟数を示したものです。

※このマップに示される建物被害は、地域ごとの危険性を相対的に示したものであり、個別の建物の危険性を示すものではありません。実際に被害を受けるかどうかは、建物ごとに異なります。

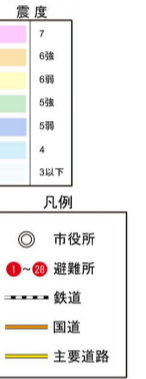
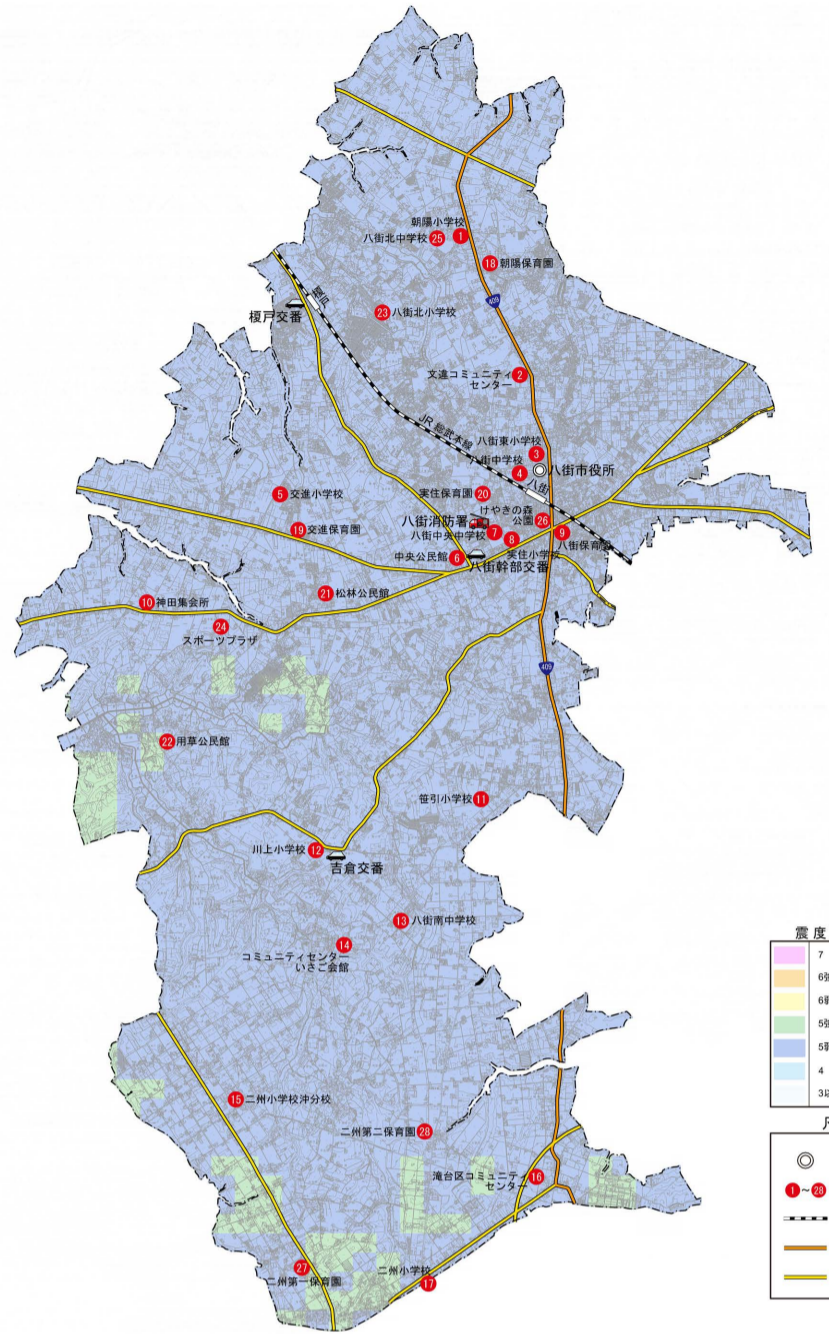
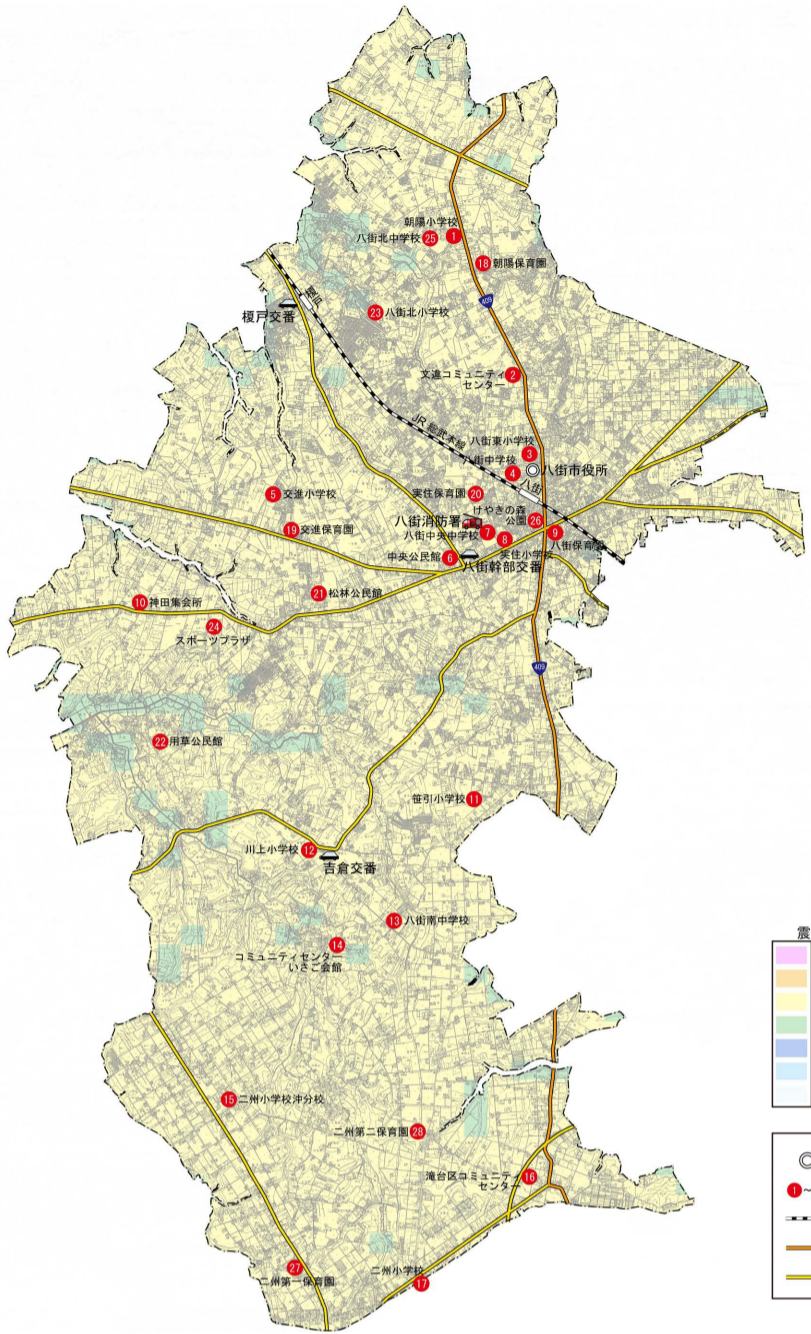


お問い合わせ
八街市 都市計画課
TEL:043-443-1430

ゆれやすさマップ

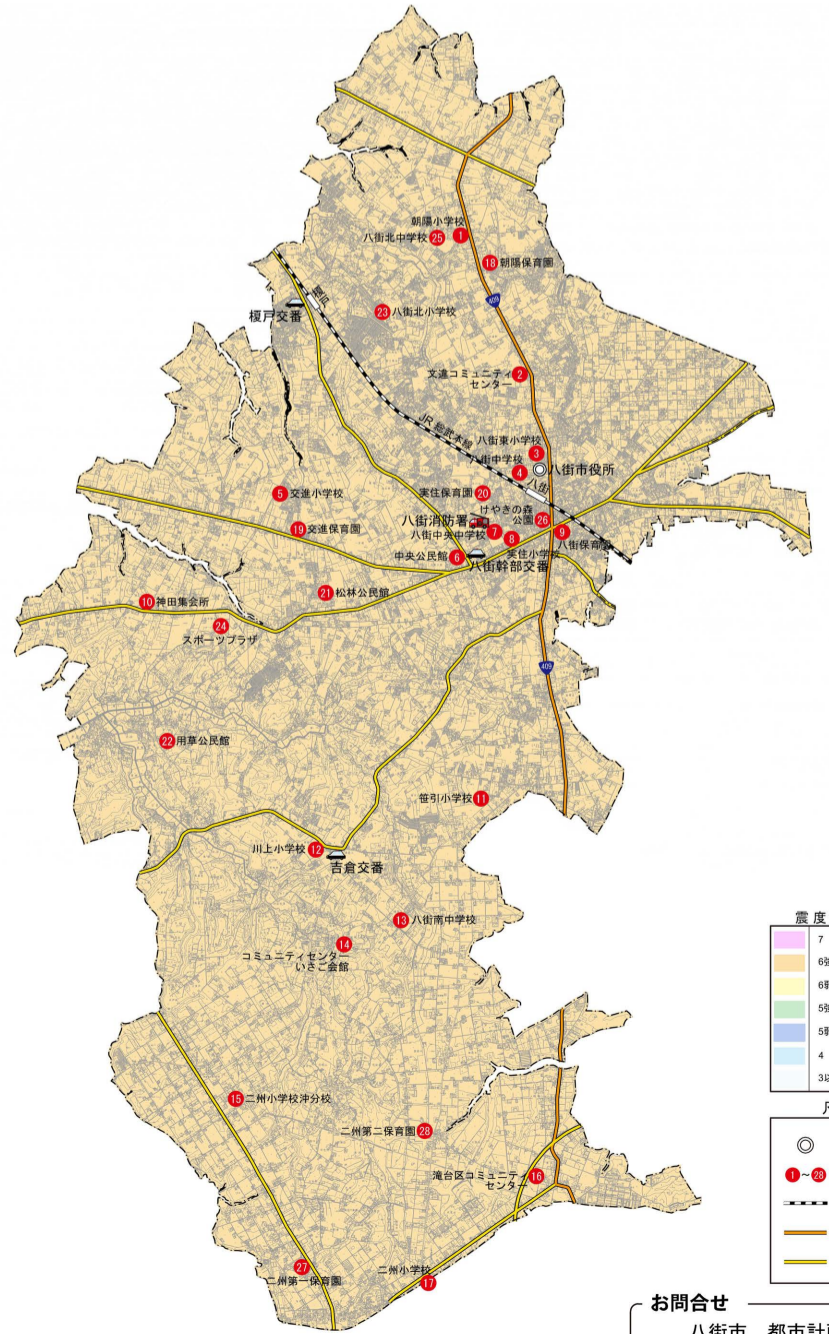
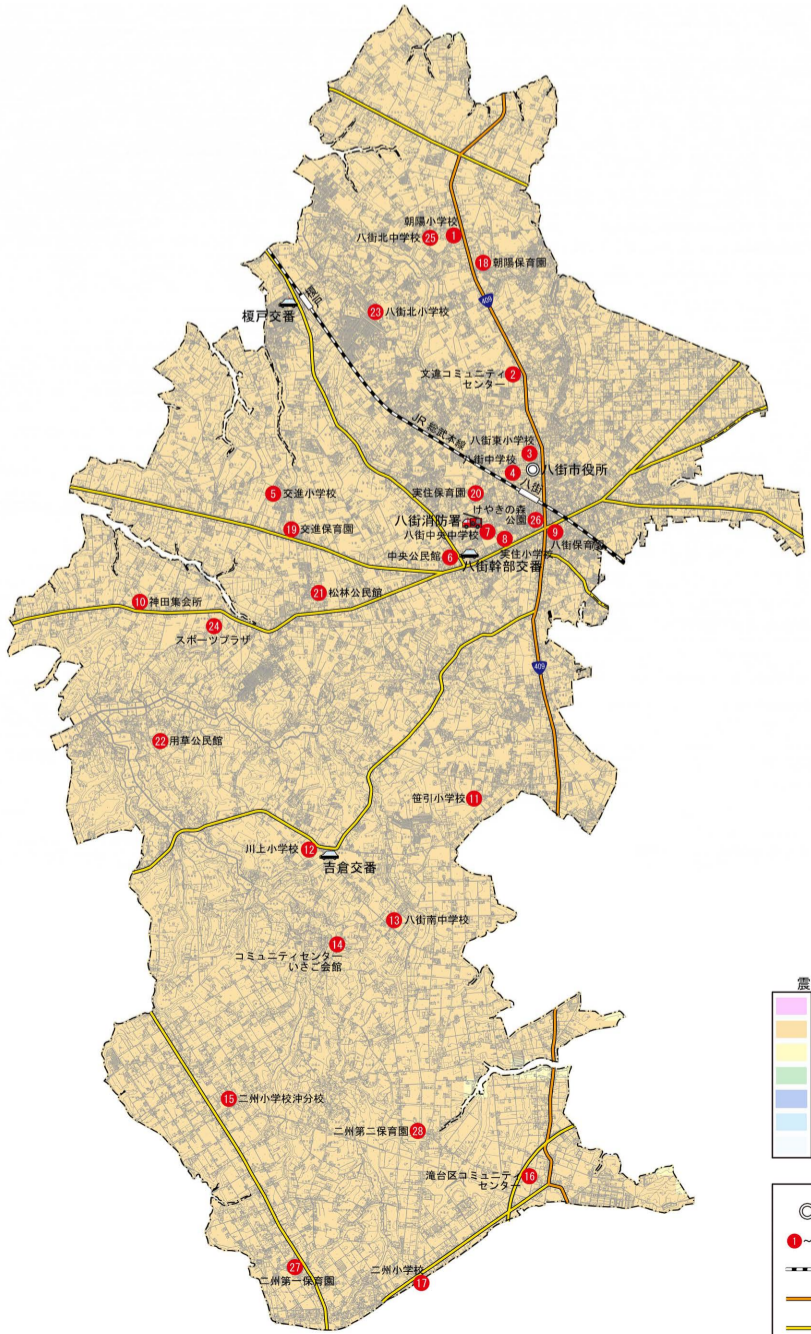
千葉県北西部直下地震 (M7.3)

大正型関東地震 (M7.9)



防災リスク対策用地震 (プレート内M7.3)

防災リスク対策用地震 (地殻内M6.8)



お問合せ
八街市 都市計画課
TEL:043-443-1430